

児童発達支援 事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和3年 3月 1日

事業所名 スタジオそら東中野

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係が適切であるか	4	2	運動するには狭いが、時間で順番に小部屋を活用するなどしている	3人同時に運動する時は狭く感じるので、安全管理の面からも小部屋での活動を取り入れる
	② 職員の配置数は適切であるか	6		声をかけあい死角などが無いよう努めている	引き続き人材育成を行い、全スタッフの負荷のバランスを均等にしている
	③ 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっている。また、障害特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6		構造化を常に見直している	構造上階段が高いので事故のないよう、職員の立ち位置に気をつけている
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間になっている。	6		湿度や換気に気を配り、本社と随時相談している 今年度は定期的な換気もしっかり行っている 日々の掃除や消毒のチェックを実施している 月に1回区連リスネスを実施している	訓練室内の加湿と床の硬さが課題⇒加湿については本社相談中。床の硬さはマットを使用するなどして怪我のないように努める
適切な支援の内容	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に広く職員が参画している	6		出勤者全員によるケース会議・打ち合わせを実施している 事務室内にスケジュールを掲示し振り返れるようにしている	引き続き、支援の充実を図る
	⑥ 保護者向け評価表により、保護者に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善に繋げている	6		出た意見を職員内で共有し、改善できる部分は改善している(スタッフの資格の掲示など)	引き続き、支援の充実を図る
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6			ホームページ上で公表している
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		6		外部評価は実施していない
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	1	全スタジオでの研修他、療育内容に関する研修を随時行っている 多く行われている	実施はあるがより多くの機会を確保したい 研修までは行かなくともシミュレーションなど想定できるような場面での対応練習の機会を増やしていく
業務改善	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6		半年に一度そらアセスメントを実施。その際出来る限り複数スタッフでより客観的に観察している ヒアリング面談を実施し内容を踏まえてケース会議を実施している	引き続き、支援の充実を図る
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6		そらアセスメントの実施	引き続き、支援の充実を図る
	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5	1		地域支援については具体的な実践が十分でない
	⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6		全スタッフで朝礼屋礼時に打ち合わせを実施している サービス提供記録でプランの確認をしている	引き続き、支援の充実を図る
	⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っている	6		終礼などで共有 支援計画と照らし合わせ方向性が変わらないようにチームで確認修正している	就労期間が短かったとしてもできる限り全職員で立案できるようにしていく
	⑮ 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		アイデアを相談している 固定担当制ではなく全スタッフで割り振っている 特別クラスのテーマは月毎に固定しているが、定期的に内容の見直しを行っている 同じ内容であっても楽しく取り組めるように工夫している	引き続き、支援の充実を図る
	⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成している	6		必要に応じて特別クラスの提案等を行っている。また集団での課題を個別時に補っている	引き続き、支援の充実を図る
	⑰ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	1	前回や最近の様子を基に朝礼・屋礼の時間を必ず設けている	声掛けが不足して役割が回っていないことがあるので、声掛けを徹底する
	⑱ 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6		課題や出来るようになったことを終礼でしっかりと共有できている 共有漏れの内容に互いに声掛けをしている	引き続き、支援の充実を図る
	⑲ 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		記入後に記録のチェックを行い、漏れや修正点の確認を行っている	引き続き、支援の充実を図る
	⑳ 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6		半年に一度実施。複数人で内容の確認も実施 必要に応じて早期見直しもしている	引き続き、支援の充実を図る
	㉑ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	2	担当者会議が少ないが、電話で対応している	必要に応じて連携を取っていく
	㉒ 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5	1	今年度は2回ケース検討会議に出席	必要に応じて連携を取っていく

関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑳	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	6			対象児なし	
	㉑	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	6			対象児なし	
	㉒	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	3	保護者や園から依頼があった際は対応している	全会員に対しては行っていない 保護者や園から依頼があった際は対応している	
	㉓	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	3	就学支援シート、指導経過等連絡票の記入と共有を実施	あまり機会がないが保護者を通じては行っている	
	㉔	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	3	モニタリングでの連携 年に1回中野区SVの訪問	助言や研修の機会は少ない コロナウイルス流行の影響でなかったため、オンラインなどがあれば参加できると良い	
	㉕	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	6			機会なし 機会はないが、外活動で場面があった際は適切な関わりを促している	
	㉖	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	6			協議会の実施状況不明	
	㉗	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		毎回のフィードバック時や半年に一度のヒアリング面談、支援計画面談で実施	引き続き、支援の充実を図る	
	㉘	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	2	4		実施無し 明確なプログラムはない 全体へはないため、個別の対応を引き続き行っていく	
	㉙	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		入会時に説明し、待合室に掲示	入会後どの程度理解されているかは未確認。周知を徹底する	
保護者への説明責任等	㉚	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6		半年に一度実施	引き続き、支援の充実を図る	
	㉛	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	2	日々のフィードバック時に行っている 必要に応じて児発管との面談を設ける事もある	ヒアリング面談は定期的実施しているが、相談自体が少なく助言にはつながっていない 相談しやすいような環境や関係性を築いていく	
	㉜	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	5		開催なし。必要に応じて実施する 子どもの療育中に待合室で話をされている方は多い	
	㉝	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6		申し入れがあった際にはすぐ対応出来るように割り振り等を調整し反映している	引き続き、支援の充実を図る	
	㉞	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		月に1回そら通信を発行している その他スタジオからのお知らせ等メール連絡の他待合室に掲示している	引き続き、支援の充実を図る	
	㉟	個人情報の取扱いに十分注意している	6		職員間でも注意を払っている スタッフがいない時間帯は必ず鍵のかかる書庫で保管している	引き続き、支援の充実を図る	
	㊀	障害のある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている	6		保護者に対してはフィードバック時以外にも積極的に話かけたりコミュニケーションを取っている 担当のお子様ではなくても活動前後にコミュニケーションを取り、その内容を職員共有している	引き続き、支援の充実を図る	
	㊁	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6			スタジオ単位での実施無し。必要に応じて実施する	
	非常時の対応	㊂	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6		職員へは研修で実施 保護者に対しては待合室にマニュアルを設置している	待合室に置いてあることなど、保護者への周知を徹底して行っていく 訓練の実施回数に差があるので平均的に行っていく必要がある
		㊃	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6		年に2回実施している	新しく入職したスタッフに対しては訓練前にもマニュアルの確認を実施
㊄		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5	1	てんかんや服薬は入会時に確認。また服薬に関してはフィードバックやヒアリング面談等で共有があれば確認している	予防接種の確認はあまりできていない	
㊅		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	4	イベント等で食べ物を扱う際には確認をしている	原則食物の取り扱いなし 今年度はイベントでも取り扱いなし そのため指示書なし	
㊆		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		日々の終礼や月一回のヒヤリハット報告で共有し、改善策を話し合っている	引き続き、支援の充実を図る	
㊇		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		年2回研修を実施 日々身体拘束の必要性や適切な補助をしているか確認し合っている	引き続き、支援の充実を図る	
㊈		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6		個人個人に対して必要性の有無を日々確認し、必要の際は適切な手順を踏めている	引き続き、支援の充実を図る	

この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。